

重点取組名	高品質みかんの生産安定と野菜導入による集落の活性化	普及センター名	長崎農業改良普及センター
活動対象	長与町 木場地区	実施期間	平成16～17年度

【対象の概要】

1. 集落総所帯数の56%が農家であり、農家の31%は専業農家と農業依存度が高い。また、農家のうち94%は柑橘生産農家で、栽培面積2ha以上の農家は51%を占めている。
2. 農村整備事業により、かんがい設備が導入され、柑橘及び野菜への利用が期待される。
3. 果樹の補完作物として直売所向けの野菜が栽培されている。

【課題設定の背景】

1. 柑橘類主体の経営の中で、厳しい農家経営にあわせた営農ビジョンの確立が必要。
2. 高品質みかんの生産が不安定で、十分な所得が確保しにくい。
3. 野菜栽培は直売所向けの露地栽培が中心で、出荷量が少ない時期がある。

【活動目標】

1. リーダーを中心に集落での話し合いを支援し、集落ビジョンの策定を行う。
2. 高品質みかん安定生産のための実証を行い、実用性確認と今後の普及を図る。
3. 複合経営指向農家の野菜花き栽培を支援し、地産地消による活性化を図る。

【活動経過】

1. 営農ビジョンの策定と目標達成に向けた取り組み

1) リーダー選出

地域の担い手に対し、集落課題についての認識と将来に対する危機意識を高めるよう誘導した。その結果、30～50歳代10名が集落リーダーとなり、年輩者は助言者としての役割を担った。

2) 支援体制を整える

普及センター内に地域振興班を中心とした各専門分野からなるプロジェクトチームを設置。年度計画と成果目標を掲げ支援方策を検討した。

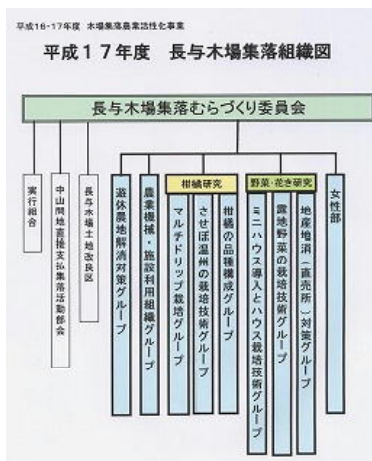
J A、町、農業委員会からなる実務者会を設立し、情報の共有と支援方策検討とともに課題解決のための役割分担を明確化した。

3) 集落の10年後のビジョンを策定。

リーダーが主体となり集落アンケートを2回実施し、集落の現状と課題を把握した。この結果を参考に「できることから取り組もう」を合い言葉とし、集落の将来像（ビジョン）が具体化した。

4) 集落課題を効率的に解決していくためにグループでの取り組みを促した。

集落全員が参加した9つの研究グループを結成し、各班長を中心とした自主的な活動に対して内容に応じた関係機関による連携支援を行った。



2. 柑橘の高品質安定生産のための栽培方法の支援

1) マルチドリップ方式を導入した柑橘栽培の実証

目的：マルチ被覆と点滴灌水を組み合わせた技術により高品質みかんと水の有効利用を促す。

- ・実証圃の設置と調査・勉強会の開催
- ・調査は担当農家が率先して実施

2) させぼ温州生産安定対策の展示

問題点：生理落花（果）しやすい特性で収量が不安定である。

- ・展示圃の設置と勉強会の開催



3. 地産地消推進のための野菜花き栽培技術導入支援

1) ミニハウス事業紹介及び推進

目的：有利販売と直売所の魅力を高める。

2) 野菜周年栽培暦の提示と勉強会開催。個別指導の実施

目的：他品目野菜栽培技術の習得を促す。

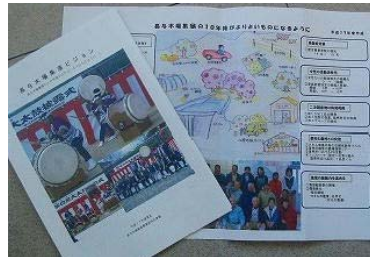
3) 直売所における顧客アンケート調査による実態把握

野菜・花きの品目が少ないという結果を得たことから、品目や出荷期の再検討を行った。



【普及活動の成果】

1. 集落活動が活発化した。
 - 1) リーダー会や集落座談会など自主的に開催・運営し、集落課題について話し合いが始まった。
 - 2) 「長与木場集落ビジョン」を策定。
集落の10年後の姿＝集落ビジョン（案）が、平成17年9月に集落全体の合意を得た。平成18年3月には集落ビジョンを冊子化し、集落内外に120冊配布した。
 - 3) 9つの研究グループが、それぞれ課題解決にむけて意欲的な取り組みを始めた。
 - ①遊休農地解消：遊休農地分布図作成、面積・所有者などの把握
 - ②柑橘品種構成：集落及び個別の品種構成や労働時間の提示と改善策の提案
 - ③女性部：IJFアーmer制度、家族経営協定、防除の基本等の勉強会
 - ④景観美化：桜の植樹
 - 4) イノシシ対策を集落ぐるみで取り組んだ。
町単独事業に併せて中山間地域等直接支払制度を活用し、集落の周囲6kmにわたって電気牧柵が設置され被害防止に高い効果をあげている。



2. 高品質みかん安定生産対策への認識が高まった。
 - 1) マルチドリップ方式を導入した柑橘栽培を実証した。
 - ①実証圃を3ヶ所設置（果樹試験場等との連携）
 - ②平成17年度実績（糖度12.5度以上のブランド率）

	全生産量に対するブランド率	出荷量に対するブランド率
A実証圃	79%	(参考：選果場データ) 町内早生品種 54%
B実証圃	83%	
C実証圃	39.9%	

- 2) させぼ温州着花（果）安定対策
開花前後の着花（果）対策（芽かき、植調剤散布など）の実施が効果的であることがわかった。

3. 直売所向け野菜花き栽培面積が拡大した。
ミニハウス導入面積の拡大

導入年度	面積	導入者数	活用事業名
～H15年度	250㎡	3名	長与町小規模園芸施設整備事業 (長与町単独事業)
H16～H17年度	682㎡	6名	

【対象の声】

この普及センターの支援活動が、集落の将来をみんなで考える良いきっかけとなった。

【今後の課題】

1. 集落ビジョンの到達に向けた各研究グループ活動を、班長が中心となり自主的継続的に取り組む。
2. 園内作業道が未設置であることや受委託に対する意識が低い等の課題があり、柑橘産地において集落営農活動を行う基盤が整っていない。研究グループが主体となり検討する。
3. 集落内の遊休農地が11haあり、今後も増加傾向にあることから、農業委員会などとの連携のもと、研究グループ活動への支援を行う。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

1. 農業活性化大会での事例発表や土地改良区の会議等の場を活用して活動成果を報告した。他地区の農家の反応は良く、集落活動に対する興味の高まりが感じられるようになった。
2. 当地区での活動成果をモデルとし、他地区の集落活動への波及効果を高める。
3. 当地区の9つの研究グループについては、自立した活動を促しながら、関係機関との連携のもと、助言や方向性を示す等の支援を継続して行う。

